

# 平成二十八年度 「日刀保たたら」火入式及び操業開始

去る平成二十九年一月十八日（水）、島根県仁多郡奥出雲町大呂の「日刀保たたら」において、本年度初の火が入り、火入式が行われ、操業が開始されました。

酒井会長、令夫人による玉串奉奠



の操業が始まりました。

酒井忠久会長はその挨拶の中で、関係者への謝辞と選定保存技術としてのたたらの重要性、また映画「たたら侍」が海外の映画祭で賞を獲ったことにも触れ、この事業の価値と真価を話し、感銘深き挨拶となりました。

来賓では奥出雲町勝田康則町長、日立金属(株)安来工場佐藤光司理事工場長から挨拶をいただき、日刀保たたらへの理解と協力をいただける旨のお話がありました。出席者の顔ぶれや会長挨拶からも、この事業への期待の大きさと責務を実感しております。

また、木原・渡部両村下の薫陶を受  
奥出雲町長・勝田氏ご挨拶



けた村下代行をはじめ各級の養成員は、おのおのの職分・責務を果たし技術向上に励んでおり、職人の力の糾合である「たたら」のありかたを極めてよく体現しております。

また、新人研修を兼ねて、第一代目には武田耕太郎博物館事業課員が火入式の補助を、第三代目には釘屋奈津子博物館事業課員が炭割りなどの実習体験を行い、釘屋課員は顔を真っ黒にして炭と格闘していました。

日刀保たたら関係者は、世界でも稀なこの鐵作りの重要性和真価を十二分に斟酌し、日々研鑽を積んでいく所存であります。  
(黒滝 哲哉)

安来工場理事工場長・佐藤氏ご挨拶



「日刀保たたら」は、本年二月四日まで操業を行い、この負託に応えることができました。本年は、昨年続き降雪量が多く、高殿の軒下からつららが下がる光景や、高殿に雪が吹き込み、炉の周辺に薄くつもる情景なども見ることが出来ました。三代の操業を経て日刀保たたらは、復活以来百五十四回を迎えております。

火入式は、一月十八日午前十時三十分、酒井忠久会長および天野清一顧問税理士の列席のもと神事で幕を開けま

した。来賓としては、日立金属(株)安来工場佐藤光司理事工場長および日立金属(株)安来製作所荒木雅文代表取締役社長が、地元からは絲原徳康島根県協議会議長・奥出雲町勝田康則町長らが出席されました。また鉄の道文化圏推進協議会会長速水雄一雲南市長、同じく副会長近藤安樹安来市長も出席され、豪華な顔ぶれとなりました。

そして午前十一時三十分、今年度初の砂鉄である「初種」が木原明村下と渡部勝彦村下により装入され、三代